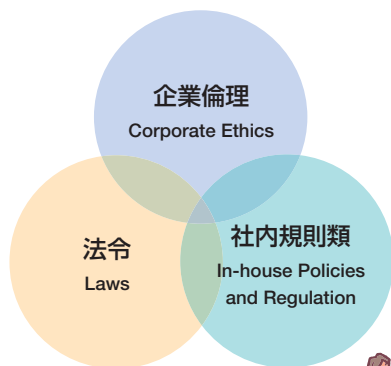


# 株主の皆様からのご質問にお答えします。

## Q1 企業の持続的成長のために高いコンプライアンスの実践が求められていますが、コニカミノルタグループでの取り組みを教えてください。

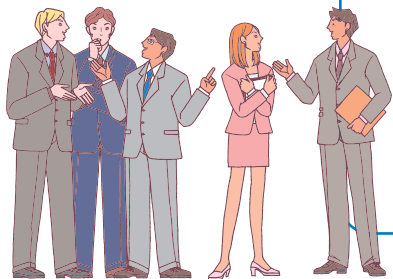
A 2003年10月に制定した「行動憲章」において、経営トップが責任を持って倫理性を高めることを明確にし、その「行動憲章」に掲げた理念に基づきグループメンバー全員の行動のよりどころとなる「コンプライアンス行動指針」もあわせて制定しました。加えて、取締役会決議によりコンプライアンス担当執行役の任命、推進支援部署の選定、コンプライアンス委員会の設置を行いました。また、グループ全体のコンプライアンスの相談窓口としてのヘルプラインも設置しました。

コニカミノルタグループでは、コンプライアンスの対象を、企業活動を行うにあたって適用される法令をはじめ、企業倫理、社内規則類を遵守することと位置づけ、グループ全体でコンプライアンスを実践しています。



### 行動憲章で定めている項目

1. 商品の有用性・安全性
2. 公正・透明な企業活動
3. 社会とのコミュニケーションと情報の開示
4. 環境の保全
5. 社会への貢献
6. 社員の尊重
7. 責任ある対処



## Q2 経営統合のプログラムは順調に進んでいるようですが、 この経営統合を成功させるためのキーは何だと考えていますか？

**A** 当社が行った経営統合は、単に2つの会社を1つにすることではなく、同時に分社化・持株会社制、委員会等設置会社を選択したことにより、透明性の高いコーポレートガバナンス体制を整えるとともに、新しいマネジメントスタイルを導入し、全く新しい企業グループを形成したことにあります。

事業再編、インフラの整備、人員配置の最適化など、経営統合プログラムは順調に進んでいますが、統合シナジーを最大限に引き出すためには人の融合がキーになると考えています。新しい人事理念を掲げ、人事制度・人材マネジメント・組織・インフラ・意識改革の面で人材融合に向けた取り組みを行っています。また、社員レベル

においても「Fusion & Change運動」（融合と変革運動）と名づけて、できるだけ早く真の融合が実現するよう積極的な展開を進めています。



## Q3 経営統合したメリットはどういうところに表れていますか？

**A** 生産の合理化・効率化、物流システムの効率化やスケールメリットを活かした購買などによるコストダウンが図れることに加え、販売ネットワークの拡大により販売力がアップしたことです。また、研究開発では、重複分野を整理することで従来は手の回らなかった新規分野の開発に着手できることや、開発スピードがアップしたことにあります。

特に、情報機器事業では、旧コニカの高速技術と重合法トナーに旧ミノルタのカラーの技術をあわせることで、高付加価値製品を提供できるようになりました。

オプト事業では、旧コニカが得意とするプラスチックレンズの技術と、旧ミノルタが得意とするガラスモールドレンズの技術をあわせることで小型化・軽量化がさらに加速したことです。進化し続けるカメラ付き携帯電話やデジタルカメラなど、技術革新とともに多様化するニーズに対応した高付加価値のマイクロカメラユニットやレンズユニットを提供できるようになり、市場競争力がさらに大きく向上しました。

